

人命救助に感謝状

9月12日、県北部豪雨災害で人命救助をされた、野元繁親さんと永山さきさんに対して感謝状が贈呈されました。

野元さんは虎居町商店街の逃げ遅れた人をゴムボートで救助に向かい、濁流の中、4人を救助されました。永山さんは川舟で虎居馬場の逃げ遅れた20人を繰り返し救助し、安全な場所まで運ばれました。

2人の的確な判断と勇気ある行動により尊い命を救うことができました。



井上町長から感謝状を受け取る野元さん

埋蔵文化財

歴史を解き明かす



古墳時代の住居が出現 住居内には小型丸底壺も出土

中津川区北方町にある向井原遺跡の発掘調査が、国道504号の改良工事に伴い、5月初旬から行われています。

遺跡では、これまでに古墳時代の住居が2基、古墳時代から縄文時代後晩期の土器や石器が約10,000点出土しました。中には、川辺町や熊本県八代が原産地となる蛇紋岩で作られた磨製石斧もあります。これにより、縄文時代からこの地で人々が生活していたことや南薩地方や熊本県などの交流があったことが推測されます。

また、向井原遺跡からは寛永通宝も十数枚出土しています。これは、この付近を金山街道が通っていたということと関係していたのかも知れません。

遺跡では、県埋蔵文化財センター職員をはじめ、町内から32人の発掘作業員が地域の歴史を解き明かすため、発掘調査をされています。発掘作業員さん方は、毎日遺物が出るのを楽しみながら作業をされているそうです。

また、「この夏、古墳時代を体験しよう」というイベントに終野小、薩摩中学校の職員研修や町社会科部会フィールドワーク、さつま町内の小中学生や多くの団体が参加し、遺跡を訪れ、発掘体験などを行いました。選択社会の授業で訪れた宮之城中学校2年生の永吉瑛喜さんは「いろいろな遺物について知ることができてよかった」と話されました。

出土した土器などの文化財は、県埋蔵文化財センターに持ち込まれ、詳しく調査した上で、この地域に人々が生活していたことを記録に残し大切に保管されます。

発掘作業は12月まで行われます。



発掘作業を体験する宮之城中学校2年生



地域林業に尽力された 功績が認められ表彰

平川の登尾範男さん（70歳）が鹿児島県造林協会総会で造林事業等推進功労者として表彰されました。

登尾さんは、森林組合作業班長として30年以上にわたり森林作業に従事され、造林・保育等の森林整備の推進に努められました。

現在も町森林づくり推進員・県営林管理補助員として間伐推進に積極的に取り組んでおられます。

地球温暖化が叫ばれる中、森林による二酸化炭素吸収・災害の防止など森林の持つ多面的な機能を発揮するためには、森林整備を推進する必要があります。

わたしたちも森林にもっと関心をもちたいものです。